

三領域の扱い方の比重を変更

調べて、伝えて、書いてみよう

「書くこと」に重点を置いた学習



教科書二年第四単元  
暮らしを見つめる  
文章から課題を見つけてみよう (読四)  
魚を育てる森 説明文 (書五)  
「めぐる輪」の中で生きる 説明文 (書五)  
課題について調べよう  
調べたことを意見文にまとめてみる (書五)  
意見交換会をもつ (読・聞四)  
グループディスカッションをする (書五)  
【十三時間配分】

この学習で身につけさせたい力  
身近な生活や学習の中から課題を見つけ、材料を集めて自分の考えをまとめること。  
自分の考えや気持ちを的確に表すために、適切な材料を選んで書くこと。

二 観点別評価の進め方

- 「おおむね満足できる」状況と判断するための視点  
課題学習 課題を見つけ、資料を活用して調べることができる。
- 発表 自分の考えをまとめ、グループ内で発表できる。
- 意見文 的確に表すために材料を吟味して書くことが出来る。
- 「努力を要する」状況にある学習者への対応  
課題学習 課題や資料を提示したり選択させたりする。
- 発表 グループの仲間にインタビューしてもらおう。
- 意見文 必要な材料や考えを箇条書きにさせる。

一 基本的な考え方  
学習のとりえ方

一年の第四単元「暮らしを見つめる」は、文章から見つけた課題について調べたことを、意見文にまとめたうえで、グループディスカッション形式の意見交換会をもつという構成になっている。配当されている十三時間でまとめるためには、学習のねらいと活動を重点化させる必要があるだろう。

「ここでは、「書くこと」の学習に重点を置いた例を紹介する(配当時間は十三時間)。「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の学習は、ほかで重点化させることにする。

今回、教科書の説明文はあえて課題例の一つとして読むだけにする。その後、課題例をいくつか提示してそれについて調べる。次に、同じテーマを選んだものどついで少人数のグループを作り、どこで何を調べたのか、何がわかり、どう感じたのかをお互いに発表し合う。自分とは違うことに注目した人や、別の方法で調べた人など、周りの人の気づきに刺激を受け、学ぶものも多いことである。最後にそれを意見文としてまとめる。本単元は、課題を見つけて調べる力を活用し、材料を吟味して自分の考えをまとめる力を身につける学習である。

三 指導と評価の計画例(十三時間)

第四次 (第十時～十三時)	第三次 (第八時～九時)	第二次 (第三時～七時)	第一次 (第一時・二時)
<p>適切な材料を選んで、自分の意見を書く。 * 時間があつたら、違うグループの人と意見を交換し合ってもよい。</p>	<p>同じテーマや近いテーマごとにいくつかのグループに分かれ、どこで何を調べ、何がわかり、どう感じたかなどを発表し合う。 * 学習者が発表や報告に慣れていなければ、用紙のワークシートを用意することも考えられる。</p>	<p>提示されたテーマを参考にして、自分の暮らし方を見つめ直す課題を見つける。 * 最初に、キーワードから次々に発想を發展させる方法を示す(ワークシート例参照)。 * 課題について調べる。 * 図書館などを利用してできるだけよい材料をあつておく。自宅から資料を持ってきてもらってもよい。</p>	<p>『魚を育てる森』を読み、魚と森の関係について知る。 『めぐる輪』の中で生きる」を読み、自分たちの行動とそれが環境に及ぼす力について知る。</p>

**どんな「課題」にしようかな。**  
キーワードから発想を広げていき、取り組む「課題」を見つけてみよう。

例

これ調べたい ←

やってみよう

木の課題

お母さんおごーくよく知っているよ  
本もあるよ(笑)

《キーワードから発想を発展させる方法を示すワークシート例》

\*『魚を育てる森』の内容については、次のような視聴覚資料があるので、単元の最後あるいは途中に見せてみようと思う。

『ネリも岬に春を呼べ』、砂漠を森に・北の家族の半世紀( NHK )、プロジェクトX 挑戦者たち( NHKソフトウェア )

四 この学習のポイントとなること

「書くこと」に重点を置いた学習にまとめたことが大きなポイントである。いわゆる「教科書を教える」発想では、「話すこと・聞くこと」が中心の学習となるが、三領域ともががんばってしまつたために学習者の過重負担となつてしまいがちである。

今回は、「教科書で教える」という発想で、自分の学校の国語教室にとって今いちばん必要であると考えられる学習を焦点化し、その学習に都合がよいように教科書を利用した。

次にポイントとなるのは課題の見つけ方だろう。中学生は、興味をもつたことについて調べるのは好きである。興味をもち、それを調べる方法がわかれば、そこから自主的な学習に入ることができる。したがって、まずは課題を見つめる力をつけさせたいと考える。

そのために、7ページに挙げたような、キーワードから発想を発展させていく方法を体験させた。この体験は国語の学習のみならず、日常のさまざまな場面で学習者の発想を豊かにしてくれることである。

意見を相手と伝え合つということもポイントとなるだろう。自分の意見を伝えられるようにすることが大切なのはもちろぬ、人の意見を聞き、新たな視点に気づくことも大切で、そこから学ぶものは大きいと思つた。

自分と全く異なる発想で課題を見つけた仲間や、自分が考えつかなかつたところから情報を見つけてきた仲間、自分と全く異なる感性で意見を組み立てた仲間などに接することで、今まで見えていなかった自他の個性や特性が見えてくることである。

書く指導も重要なポイントである。実際の活動では、課題設定に手間取つたり、収集した材料が不十分だったり、回り道や失敗も経験するはずである。発表することができない場合でも、どのように考えて行動し、どんな失敗をして、そこから何を学んだのかを振り返つて書くことも「書くこと」の学習であると指導することが大切だと考える。学習者が「回り道や失敗も学習の大きな成果だ」ととらえることができれば、書くことに対する心理的な壁はかなり低くなることである。